

# 8月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

29年8月のD I 値は8指標中、「販売価格」と「取引条件」の2指標が上昇。特に「販売価格」は2桁の大幅な上昇となった。残り6指標は下落となった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

猛暑の影響で家電製品小売業では、引き続き季節商品の動きが活発であり、貨物運送業においても飲料品関係の荷動きが堅調であった様子。また、生コンクリート業においては、今後官需の本格化や民需の新規需要を見込める事について前向きな声が寄せられた。

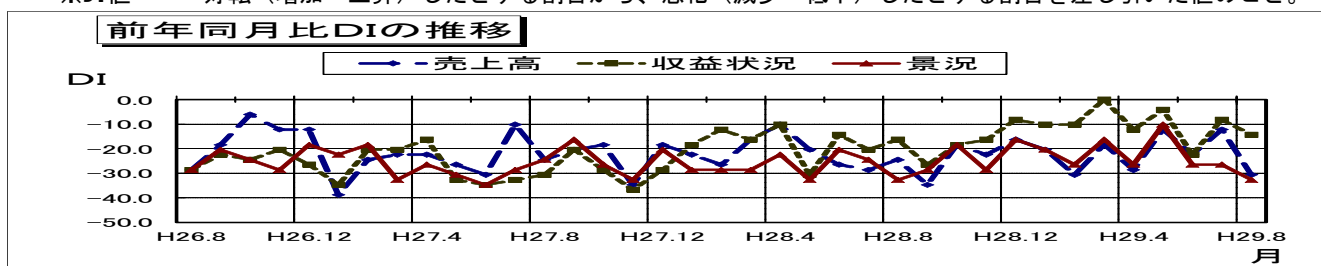
一方、慢性化する労働力不足問題をはじめ、依然として続く原材料高や軽油価格の上昇に加えて、金融機関の融資動向に嘆く声も寄せられた。

景気は回復を続けていると言われている中、日経平均株価が2年1ヶ月ぶりの高値水準となる。しかし、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	H28 8月	9月	10月	11月	12月	H29 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比 増減
景況	-32.7	-28.6	-18.4	-28.6	-16.3	-20.4	-26.5	-16.3	-26.5	-10.2	-26.5	-26.5	-32.7	-6.2
売上高	-24.5	-34.7	-18.4	-22.4	-16.3	-20.4	-30.6	-18.4	-28.6	-12.2	-22.4	-12.2	-30.6	-18.4
収益状況	-16.3	-26.5	-18.4	-16.3	-8.2	-10.2	-10.2	0.0	-12.2	-4.1	-22.4	-8.2	-14.3	-6.1
販売価格	-8.2	-6.1	6.1	2.0	4.1	6.1	6.1	-4.1	12.2	8.2	-2.0	-6.1	4.1	10.2
取引条件	-6.1	-8.2	4.1	2.0	4.1	2.0	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	-4.1	-8.2	-6.1	2.1
資金繰り	-10.2	-14.3	-6.1	-8.2	-12.2	-6.1	-6.1	-8.2	-2.0	0.0	-10.2	-6.1	-8.2	-2.1
設備稼働度	-33.3	-22.2	-5.6	-11.1	-11.1	-27.8	-5.6	0.0	-5.3	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	-2.1
雇用人員	-16.3	-16.3	-16.3	-12.2	-16.3	-14.3	-14.3	-8.2	-8.2	-10.2	-6.1	-4.1	-12.2	-8.1

※D I 値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味噌・味噌の出荷量、生産量ともに前年同月比100%割れ。御膳みその出荷量、生産量も減少した。味噌全体に対して生産量ではシェア24.9%、出荷量においてもシェア27.8%となり、30%を割れている。また、主原料である米の価格も高止まりとなり、コスト高が続いている。

#### <木材・木製品>

2. 製材・売上高不変。収益状況不変。製品流通ルートについては荷動きの良いところもあったが、量販店ルートは比較的厳しい状況。公共物件の発注など需要期に向けて荷動きは若干改善の兆しが見られるものの、全般的に厳しい状況に変わりはない。
3. 製材・一進一退の状況で、景気に対する先行きが不透明である。
4. 木材・売上高不変。収益状況不変。原木丸太出材量は多くなりつつあるが、価格は底値横這いで推移している。一般建築材についても大きな進展は見られない。しかし原木の手当て買いは多く、注文材も多くなりつつある。
5. 木材・売上高不変。収益状況不変。最近、銀行が木材業界に対して貸し渋りや締め付けが大変厳しくなっている。

#### <印刷>

6. 印刷・お盆などで休みが多く、稼働日数が少なく売上の上がらない月である。阿波踊りが終わると少し街に活気がなくなってくるが、LEDや藍で徳島を盛り上げる等数々のイベントが行われている。斬新で新しい取り組みによる徳島の創造を期待している。
7. 印刷・本年は、春以降受注が順調であるという話は全く聞こえてこない。特に7月、8月は各社受注に苦戦しているようである。資材販売会社からもそのような声が聞こえてくる。印刷に関連するもの以外も受注出来るよう、早急に取り組む必要があるように思われる。9月以降はカレンダーや年末年始の需要に期待したい。また、中央会・行政庁への要望事項として、地方の印刷業者は官公需関連の印刷物に依存するケースが多い。地元資本の商工業者からの発注が減り続けるなか、雇用の確保と健全経営維持のため、官公需関連の適性価格での発注をお願いしたい。また、官公需において、成果物の納品時に製作途中で使用するデータの提出が求められることが多いが、もう一度知的財産権等を見直して頂きたい。

## <窯業・土石製品>

8. 生 コ ン・昨年同月に比べて特需工事のおかげで出荷量は微増であった。しかし、お盆休みの関係もあり、他の月に比べて出荷量自体はかなり落ち込んだ。
9. 生 コ ン・出荷数量は、対前年同月比13%減少となった。要因としては、前年は大型官工事が7月～8月に上がったものが終わった事による。今後の見通しについては、四国横断自動車道、吉野川大橋の工事が秋から本格化され、また民間では、病院施設新設など新規需要を見込める事により、前年並みが見込まれる。

## <鉄鋼・金属>

10. 鉄 鋼・業況に大きな動きは見られない。売上高、収益状況などにも変化はなく、全体的に弱含みで推移している。景気に対する先行き不透明感もあり、景気の好転が期待される場所である。また、技術者の確保にも相変わらず苦慮している。
11. ステンレス・売上高不変。収益状況不変。海外情勢の不安定な状況が懸念されるが、現在のところ直接的な影響はない。国内も中小企業では大きな動きはなく、全体として先行き不透明な状況が継続している。

## <一般機器>

12. 機 械 金 属・全体として、売上高や収益状況の改善に繋がるような大きな変化は見られない。景気、設備投資ともに回復傾向が見られるものの、将来に対する先行き不透明感が依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、熟練技術者の確保難が課題になるなど人手不足感が継続している。

## 【非製造業】

### <卸売業>

13. 食 糧 卸・売上高増加。収益状況悪化。飼料米の補助金制度に加え、北日本、東日本の天候が危ぶまれ相場が高く推移しており、今後の原価高が想定される。

### <小売業>

14. 機 械 器 具・先月と比べて資金繰り等に特に変化はなかったものの、業況は悪化。
15. ショッピングセンター・昨対比はスーパー99.4%（食品99.6%、衣料97.1%）、専門店 97.4%であった。店舗全体では昨対比98.6%という結果であった。専門店の業種では、食料品と大手100円ショップが引き続き好調を維持している。飲食店、衣料品店（全国チェーン店を除く）、住居関連店舗においては厳しい状況であり、売上に苦戦している。
16. プロパンガス・売上高減少。収益状況好転。今年6月1日に施行された「液石法施行規則、液石法施行規則の運用・解釈通達の一部改正」を組合員に再度周知し、売上高の増加に繋げていきたい。

17. 電気機器・売上高不変。収益状況不変。先月同様に猛暑日が続き、エアコンを中心に冷蔵庫等の売上が好調であった。しかし、映像関連機器の動きは依然として低調である。
18. 畳小売業・前半は猛暑と台風により、畳の需要が低下。後半になってくると少々荷動きがあったものの、低調に推移している。また、顧客からは先月同様「涼しくなってから畳替えをして欲しい。」といった要望が聞かれる。

#### <商店街>

19. 徳島市・例年になく厳しい暑さで、日中の商店街は客足が鈍い。阿波踊り期間中は人の動きが活発でサービス業は好調であったものの、猛暑による影響で客足が遠のき、昨対比厳しい状況であった。
20. 阿南市・全体的に横這いで推移している。

#### <サービス業>

21. 土木建築業・8月は改築工事や維持修繕・橋・トンネル補修工事、交差点改良工事等、工事量は昨年度と同様程度と予想される。補正予算においては今後、どのようになるか不明であり、全体として工事金額は昨年度より少なくなるものと思われる。
22. 自動車販売整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-2.5%の1,198台、中古車は+2.2%の413台、合計では-1.3%の1,611台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比+13.9%の937台、中古車-12.1%の357台、合計は+5.3%の1,294台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比+1.5%の2,905台と微増であった。毎年8月は新車の販売台数が落ち込む時期であり、今年度はじめて普通車の新車販売台数が前年を僅かに下回った。同じ車に長く乗り、新車を買う人が減っている為、メンテナンスの必要性を周知することで車検、点検整備によるサービスの収益を上げていきたいところ。
23. 旅行業・イベント等もなく、全体的に客足は鈍いようだ。交通機関各社やホテルから旅行会社への仕入価格が上がっている為、段々と厳しくなるのではないかと思われる。
24. 広告業・昨年と変わらないが、今後の業況見通しはやや良い。

#### <建設業>

25. 建設業・公共工事の発注が遅れており、県下全域で受注量が減少している。特に徳島県の発注工事が少ない。また、生コン価格の引き上げ要請があり、500円/tから2,000円/tの値上げとなるようだ。
26. 鉄骨・鉄筋工事業・対前月比売上高に変わりはない。
27. 板金工事業・仕事の受注量は堅調に推移しているようだ。
28. 電気工事業・新設住宅口数は191件であり、対前年比68.5%と大幅に減少した。

## <運輸業>

29. 貨物運送業・売上高減少。収益状況好転。一般貨物輸送は、飲料品関係においては猛暑日の日数が多かった為輸送量が増加。毎年、お盆休暇による実働日数が減少するが、飲料関係は前年並みの水準であり、他の取扱品と比べ好調。生鮮野菜は荷動きが少なく前年よりも低調に推移している。軽油単価は、前月比若干の値上がりとなった。
30. 貨物運送業・売上高不変。収益状況不変。気温が高かった為、飲料品、医薬品などの輸送が順調であった。軽油価格は横這い。